



# 平成16年第1回 市議会定例会

# 市長が施政

(2面から続く)  
からの声をよく耳にします。そこで新たに、違反広告物の除却協力員制度を発足させます。

また、道路及び道路付属物は、市民生活のなかで最も身近な公共施設です。これを市民とともに改善に良好な状態に維持することを目

的に、道路施設管理の市民協力制度（道路里親制度）を発足させました。この制度の狙いは、道路の不正使用（汚損・不法投棄・違法駐車等）の抑制や道路の法面・未利用地などの植栽活動を通して、道路の維持管理や安全の確保を市民とともに進めるものです。

は、特別養護老人ホーム80床を中心とした市内で初めての多機能型施設で、来年1月に竣工、4月開所の予定となっています。

これが完成しますと、計画に基づく施設の整備目標はほぼ達成されますので、今後は高齢期も元気気に過ごせる、介護予防に施策の重

が得られるよう、職安OBによる就労促進支援事業を行い、生活保護受給者の就労促進を図ります。大変厳しい環境に置かれていましたが、障がい者の就労について、新年は身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者の雇用の促進及び拡大を図ることを目的に、障がい

一は、地元関係者の要望に即した施設内容を備え、完成が待ち望まれていますが、工事も順調に進み来年1月には竣工し、4月開設の予定となっています。



市民病院は第2期・第3期増改築工事が予定されています

来年4月に開所予定の(仮称)木曽森野高齢者福祉施設 完成予想図

A black and white photograph of a large, modern hospital building with multiple stories and a prominent entrance. The building has a light-colored facade and dark-framed windows. In the foreground, there is a paved area and some low-lying plants.

か。介護保険制度が始ま  
降、介護認定を受ける高齢者  
々増加しています。しかしで  
だけ介護に頼らず、元気に過  
には、それなりの努力も必  
す。特に足腰の機能低下は、  
状態に陥る要因となります。  
で、運動による身体機能と口  
活能力の維持・向上を目指し  
諸外国や国内の先進医療機関  
その効果が実証されている、  
トレーニング事業を始めます。  
また、心ならずも職を失  
きたくても職がなく、生活保  
頼らざるを得ない方が近年  
ています。そこで、こうした  
の自立をサポートし、生活の

て以  
きる  
こす  
要で  
介護  
そこ  
常生  
て、  
等で  
筋肉  
。 働  
護に  
方々  
増え  
ます。  
そこで、こうした個々の分野  
を、福祉全般として総合的に担  
え、行政だけでなく地域全体でサ  
ークルの運営やボランティア活動  
など、多方面から支援を行っていき  
ます。そこで、この会議では、各部  
門の意見交換や情報交換を通じて、  
より効率的な支援策を検討していき  
ます。また、今後は、この会議の運営  
をより活性化させるため、定期的な会  
議開催や情報共有のためのツールの確  
立などを検討していきます。

小児科医及び市の保健師との連携による母子保健の充実を図ります。

つぎに、就学前の乳幼児で発達の遅れが心配されたり、認められた子どもたちを対象に療育活動を行っている「すみれ教室」の中には、新年度から新たに児童福祉法に基づく知的障がい児通園施設を開設します。定員は40名で、週5日のお通園施設となり、また子ども達の発達に関する悩みの相談先を分かりやすくするため、施設名を「町田市子ども発達センター」と改めました。なお、「すみれ教室」は愛称名として引き続き使用します。

健やかに子どもが育ち、  
育てるまちを目指して

昨年4月に、子ども行政の一  
化を図ることを目的に、「子ども生  
活部」を発足させ、市政の最重要課題  
の一つとして位置づけま  
た。そこで、町田市の子どもの現  
状や取り巻く環境を分析し、子ども